総合俳句誌 俳壇
暮らしの中に詩心を

Haidan 2020 | 10 | October

俳壇

昭和59年8月27日第三種郵便物認可　令和2年10月1日発行（毎月1回1日発行）第37巻第11号

◉特集

どう詠み、味わう？ 忌日の俳句

◉追悼企画

追悼・鍵和田釉子

◉巻頭作品10句

秋尾　敏・石渡　旬
笹瀬節子・嶋田麻紀
成川雅夫・藤本美和子
星野恒彦・矢島　惠

◉巻頭エッセイ

マブソン青眼

◉好評連載

思想としての虚子
続々・日本の樹木
四季巡詠33句
宮坂静生・柴田佐知子
俳壇史エピソード
季語への供物

俳壇
昭和59年8月27日第三種郵便物認可　令和2年10月1日発行（毎月1回1日発行）第37巻第11号
◉本阿弥書店　◉定価九〇〇円 本体八一八円

滑稽俳句協会 会員募集

滑稽俳句について

◆俳句とは「俳諧の句。こっけいな句」である（『広辞苑』）
◆寒川鼠骨は「滑稽にあらずんば俳句にあらず」と説いた
◆柳田国男は「人を楽しませるものが芸術なのに」と戦後の俳句を嘆いた
◆加藤郁乎は「滑稽をさしおいて俳句を論ずるのは滑稽だ」と主張した
◆山本健吉は「俳句には滑稽、挨拶、即興という命題がある」と明言した

しかし、明治、大正、昭和は、日清・日露・太平洋戦争という時代を背景に笑いは自粛され、滑稽俳句不毛の時代であった。そして、平成になって、ようやく滑稽俳句の復興が始まった。

滑稽俳句小史

◆平成14年　『俳壇』（本阿弥書店）に滑稽俳句欄創設
◆平成20年　滑稽俳句協会創立
◆平成27年　『滑稽俳句集』発刊
◆令和元年　『平成の滑稽俳句』発刊

『俳壇』の滑稽俳句欄13年間の全3213句と寸評（308頁）

滑稽俳句協会報10年間の特選句と寸評、滑稽俳句大賞作品ほか全2817句（300頁）

滑稽俳句協会　　会長：八木　健
〒791-2103　愛媛県伊予郡砥部町高尾田1173-4
電話 090-8287-1390　　FAX 089-957-1155
メールアドレス　kokkei@kokkeihaikukyoukai.net
ホームページ　＊滑稽俳句協会で検索できます
年会費7000円　＊毎月滑稽俳句協会報をお届けします

雑誌 17555-10
Printed in Japan
4910175551008
00818

表現する情景の大きさ、厚み、奥行きを求めたいと思う。俳句という十七文字の文芸は、日本語の奥深さを知ることも必要であり、特に推敲する力をつけたい。また楽しい作句のためには、日々の生活や自然の中で、新たな感動を得られるよう心掛けたい。

安曇野

名小路明之［帆］

この先は二輛列車や稲の国

安曇野の大地うるはし栗を食む

錦木の色重なりて浄土とも

澤の音消えて峠や紅葉狩

雁がねの棹の消えゆく甲斐の朝

安曇野の濃霧伏せをる夜明かな

中秋や雲にたゆたふ舟は月

名小路明之（なこうじ・あきゆき）
昭和18年生まれ
平成12年作句を始める
平成27年「帆」に入会、浅井民子に師事
俳人協会会員